

あらためて世界遺産とは

—世界遺産の真意を問い、ESD との関係を考える—

- 1 「世界遺産」の真意：誰もが「遺そう！」と声を上げた時に「世界遺産」の概念
 - ・1972 年 「世界遺産条約」の成立 アブシンベル神殿の危機 「人類の宝」の保存と次世代への継承」を目的 「世界遺産基金」 他への配慮 ボロボドール アンコール
 - ・切実感があつた とくに自然遺産 「生物多様性」が危機に瀕していた 絶滅危惧種「顕著な普遍的価値」（その消失が人類にとっての損失）「文化・個性の多様性」へ
- 2 50 年経過した現状
 - ・日本の条約締結は 20 年間も遅れた 国際的視点が弱かった
 - ・1992 年：法隆寺 姫路城 屋久島 白神 93 年：京都 95 年：白川郷 96 年：厳島 原爆ドーム 98 年：奈良 99 年：日光、と登録 世界的水準の有形遺産は登録された
 - ・その後は「産業革命遺産群」、「宗教的巡礼路遺産群」とシリーズ化 登録遺産数の制限 巡礼路 魂の浄化（サンチャゴデコンポステーラ）熊野古道 精神性が問われていた
 - ・国際紛争の激化：世界遺産であることが破壊の標的 ドブロボニク モスタルの橋
 - ・世界遺産に登録されることで 自然破壊の進行 観光公害 自然だけでなく日常生活も
- 3 世界遺産教育と ESD、SDGs への接続
 - ・1994 年 UNESCO は「世界遺産教育」の提起 ASP に ex バルト海プロジェクト
 - ・地域へのアイデンティティを育む 「世界遺産条約」の義務 保存責任 当事者意識
 - ・「地域・世界遺産教育」 「地域自慢」「地域埋没主義」からの脱却 「自己を知り、他者を知る 他者から見ての自己相対化」 スパイラルな学びの深化 普遍性と個別性
 - ・世界遺産のないところでも実践可能 地域の美しい景観を守る 次世代に伝える教育
 - ・ESD のツールとしての「地域・世界遺産教育」 「SDGs」への発展を目指す
- 4 新しい学びの模索 現代的な課題（学習内容だけでなく、学習方法の見直し）
 - ・学びの間直し 正解がない 自分で問いを立てて自分で答えていく 生涯学習の基礎
 - ・「知る」ことの吟味：言葉主義の知識 分かったつもり 生徒・学生の学びからの逃避 「外発的動機付け」から「内発的動機付け」 受験 就職に役立つから学ぶ その目標が達成されれば雲散霧消する知識
 - *面白いから学ぶ 学ぶ喜び その一つの方途が直接体験ではないか？ 本物との出会い 直接体験の持つ意味 ネット社会の陥穽 フィールドワークの導入 人格的邂逅
 - *他者から必要とされる体験（学生が嬉々としてバイトで見せる能動性） 上級生が下級生に見せる姿 アンテナを尖らせ 雪だるま式知識の獲得 それがペルソナ 人格
 - *「仲間の教育力」に依拠する 教授者と学習者の分離ではなく学習者同士の学び会い

“いい教育とは、いかに価値ある体験を獲得させるか”ではないか ハチドリ一滴

原爆ドーム

広島に朝が訪れました。百万人以上が暮らす近代都市、ここに一つの廃墟が残されています。原爆ドームです。1945年8月6日、人類史上初めて、広島に原子爆弾が投下されました。廃墟となった町を目にしたあるアメリカ人ジャーナリストは、「ここはまるで砂漠のようだ」と書き記しました。原爆ドームは、受難の日から時を止めたまま存在し続けることで、あの日の事実を語っています。核兵器廃絶と人類に平和を願う記念碑として、1996年、原爆ドームは世界遺産に登録されました。

6本の川に囲まれた三角州に位置する広島市。町の中央にある中州。ここに平和公園があります。原爆の爆心地近くに造られた広い緑地帯は、市民の憩いの場であり、平和を誓う祈りの場になっています。公園に沿った川岸を歩くと、時間に置き去りにされた建物が顔を見せます。剥き出しになった鉄骨。吹き飛ばされたままのレンガの壁。原爆ドームには、半世紀余り前の夏の日の記憶が残されています。

1945年8月6日、いつもと同じ朝を人々は迎えていました。その頃上空には、原子爆弾を積んだエノラゲイが近づいていました。午前8時15分、強烈な閃光が町を覆い、巨大な火柱ときのこ雲が上がりました。猛烈な爆風と4000℃にも達する熱線は、爆心地近くの人と建物を一瞬にして消し去りました。広大な瓦礫野原と化した広島町。ところが、爆心地からわずか160mの場所に、産業奨励館が巨大な残骸となって残っていたのです。いつしかそれは、原爆ドームと呼ばれるようになりました。もの言わぬ残骸は、古い写真のように、その姿で破壊されたその日を訴えかけています。

原爆ドームがかろうじて残ったのは、爆心地に近く、爆風をほぼ真上から受けたからだと言われています。建物の外壁は、一階部分を残してほとんど吹き飛ばされたものの、中央部は破壊を免れ、ドームの鉄骨を残した独特の風貌が生まれたのです。

原爆ドームは、広島県産業奨励館と呼ばれていました。チェコ人の設計家ヤン・レツルの設計で1915年に建設され、物産品の陳列や博覧会等に利用されました。軍事都市として発展した広島の中で市民に身近かな施設となり、ライトアップされることさえありました。ヨーロッパ風の洒落た近代建築が、破壊を経て平和のシンボルになるとは、想像さえできないことでした。

8月6日、平和公園には、夜明け前から世界中の人々が集います。午前8時15分、参列者は、原爆で犠牲になった人々に黙祷を捧げます。

平和公園の中にある、広島平和記念資料館。1万2000点に及ぶ被爆資料が収められています。時を刻むことをやめた懐中時計。原爆で亡くなった59歳の男性のもので、息子から贈られ、肌身離さず持ち歩いていたといいます。13歳の少年は、母親の作った弁当を大事に抱えたまま息絶えました。18歳の少女の髪の毛です。被爆から二週間後、少女の髪の毛はぱっきり抜け落ちました。

原爆が投下されてまもなく、広島には雨が降りました。原爆が巻き上げた塵や土の混じった黒い雨です。それは、放射能も含んでいました。黒い雨は、1時間以上降り続いたのです。

「被爆から75年は草木も生えない。」そう断言する学者もいました。しかし、荒地で木々

は育ち、町は復興を遂げました。原爆の傷跡が取り除かれ、生まれ変わった町。その中で原爆ドームの存在感は際立っています。原爆ドームの管理は、広島市の手によって行われています。壁や柱の状況が点検され、倒壊の危険を避けるため、様々な対策が進められています。今にも倒れそうな壁は、内側から鉄骨のブリッジを縦横に何十本も張り巡らせ、支えています。雨や太陽にさらされ脆くなったレンガや壁のひび割れた部分には、特殊な樹脂が注入されています。広島市では、原爆ドームのデータベース化を進めています。「これが原爆ドームの図面です。」レンガ一つ一つの形や大きさ、そしてひび割れの箇所や補修した内容など、チェック項目などは2万箇所に上ります。このデータにより、例えレンガ一つが落下しても直ちに対処できるようになりました。どれだけ時を経ようとも、この場所だけはあの日の状態が保たれているのです。

1950年頃、市民の間から原爆ドームはいらないという声が上がりました。忌まわしい事実を蘇らせるものは消し去りたいとの思いからでした。当時、原爆ドームは放置されたまま崩壊していく運命にありました。これを救うきっかけになったのは、一人の女子高生の書いた一文でした。一歳の時に被爆した楮（かじ）山ヒロ子さんの高校時代の日記帳。そこには、学校での出来事、家族や友人との会話などが綴られていました。しかし、ある一日だけその内容は大きく違っていました。1959年8月6日、楮山さんは原爆に対する思いを初めて日記に綴りました。「恐るべき原爆は 二十世紀以後忘られて あの痛々しい産業奨励館だけが いつまでも後世に 訴えてくれるだろう。」産業奨励館、後の原爆ドームに思いを託した翌年の春、楮山さんは16歳で亡くなりました。被爆15年目に発病した白血病が原因でした。楮山さんは、被爆したことを親しい友人にも話していませんでした。放射線障害への不安を抱えながら綴った思いを、友人達は、彼女の死後、知ることになりました。「自分でも死がくるような気がするとか、とても怖かったと思います。それを隠していつも明るく私達の前でと思うと、今思うと、で、放射能の怖さですとか、被爆者の不安、これは口に出せない分だけどうしたらこの怖さ、恐怖心を伝えられていくかということが、彼女にとっては、日記を綴ることで、そしてもう原爆ドームを保存してほしいということになったんだと思います。」楮山さんの友人達は、原爆ドーム保存のため、募金と署名運動を始めます。小さな運動の輪はやがて世論を動かします。

1966年、広島市議会は、原爆ドームを永久保存することを決議し、初めての保存工事が実施されました。楮山さんの死から6年の時が経っていました。「当時、ドームを残すということが、戦争の怖さを思い出させるから壊したほうがいいとか、もう壊れかけているものを、どうしてお金をかけて残すんだとか、とにかくまあ、随分言われたんです。だけど私達は、原爆ドームを残すことによって、核の恐ろしさ、とにかく戦争の恐ろしさ、で楮山ヒロ子さんの希望を叶えてあげたいと思います。目から消えるものは、心からも消える。そういう気持ちで、一生懸命やっただけです。」

目から消えるものは、心からも消える。原爆の犠牲となった16歳の少女の思いは、同じ世代の若者に受け継がれ、原爆ドーム保存に導きました。

8月6日午前8時15分、人類史上初めて原爆が兵器として使われたとき、それは虚構でも物語でもありません。原爆ドームは、その一瞬を留めるため、世紀を越えた今も時を止めています。